

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103163		
法人名	株式会社ペシエドマーニ		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	長崎市深堀町5丁目216番地2		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成31年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模のグループホームの利点を活かした、家庭的でキメの細かいケアをモットーにしています。併設の住宅型老人ホーム(定員4名)をあわせ、夜間は利用者13名に対して夜勤2名体制をとっており、夜間のケアもさらに行き届いたものを提供しています。日中も基準人員配置以外に人員を配置(日勤、半日勤など)しており、病院受診や、催し物などへの対応を強化しています。その他、ショートステイ利用、ターミナルケアの実践など、利用者及びその家族の方々の要望に、出来るだけ対応するよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、日頃から地域の祭や文化祭、バザー等に積極的に参加している。また看取りに対して積極的に取り組んでいることは特筆すべきであり、昨年度5人の入居者の最期をホームで看取っている。ターミナルケアに関しては、協力医療機関との連携の下、職員参加の検討会を開催し、協力し合いながら取り組んでいる。今年度の運営推進会議では、年間を通じて”身体拘束及び虐待廃止”を重点テーマに掲げ、代表や管理者が身体拘束に関する委員会の報告とともに、問題点を発表している。また特定の家族に負担をかけないよう、代表自ら書面で出席の要請を行い、複数の家族の参加が実現しており、運営推進会議を運営に活かす姿勢は高く評価できる。介護福祉士の職員を多く配しており、入居者が”ゆったりといきいきと”暮らしていけるよう取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで作り上げた理念は定期ミーティングで毎回唱和し、理念を確認し合い実践に取り組んでいる。	理念は、“ゆったりといきいきとあなたらしく”と掲げており、“安心して和み、力を発揮して、自立して暮らす”と言う願いが込められている。職員は会議の際に全員で唱和し、理念を共有している。職員は、入居者の尊厳を大切に寄り添う支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはほぼ参加し、地域の方からも「いつも来てくれて」と受け入れてもらっている。「おんのほね」時には今年も入居者と一緒に行ったアクリルたわしを地域の方に配布し喜んでいただけた。	ホームは自治会に加入し、回覧板にて地域の行事や情報の収集を行っている。入居者は、近隣の認知症カフェや図書館に通っている。年1回の防災訓練に参加する他、教会のバザーや町内の文化祭への出品、“おんのほね祭”への参加と日頃から近隣住民と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダーの方に運営推進会議に参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告、話し合いに努めている。その内容でサービス向上につながるものは活かすよう意識している。議事録はご家族へも送付している。	年6回開催している。重点テーマとして身体拘束、虐待廃止を掲げ、毎回説明と委員会の報告を行っている。包括支援センターから認知症カフェの情報を得て、入居者の利用に繋がっている。また、家族に議事録を送付する他、代表が参加依頼の手紙を送付し、新たな家族の出席が実現した事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から派遣される介護相談員の受け入れ、活用のほかに、事故報告の的確な処置、定期的報告、監査での対応などは実践しているが、現実的には、その他の行き来、情報交換はさほどない。	運営推進会議で、包括支援センターからさまざまな情報を得ている。行政には各種手続きの際に訪問する他、事故報告書は代表が自ら提出している。また、ホームは介護相談員を年1回受け入れている。更に職員は、市が主催する研修会やGH連絡協議会の研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設け、取り組んでいる。身体拘束を行わないことを日常的にも話し合っており、言葉での制止、態度での抑圧も行わないよう努めている。身体拘束防止に関する会議も開いている。	身体拘束をしない旨の指針を定めている。身体拘束に関する委員会が身体拘束廃止会議を開催し、取組みに関する報告を運営推進会議で行っている。ベッドには柵等は設置せず、玄関の鍵も日中は開錠している。入居者から外に出たいという声があれば、職員と一緒に外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも積極的に参加している。(外部研修に参加したスタッフによりホーム内研修を行っている。虐待に関する理念もスタッフで作成し、ミーティング時に唱和し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者の2人が成年後見人制度を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問を尋ねて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満はスタッフが受け入れ介護に活かしている。又、市からの介護相談員を受け入れている。家族等に関しては、意見や不満を気軽に言える関係作りに努めている。又来苑時に意見を聞くようにしている。	朝の”おはよう”という挨拶に始まり、職員は入居者に声掛けし、話しやすい関係を作っている。家族の来訪時に意見を聞き取っている他、県外の家族には手紙や電話で入居者の様子を伝える際、要望を聞き取っている。家族宛てに遠足の誘いの手紙を出し、話しやすい場面を作るよう工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次のミーティングを始め、日々のやりとりの中で直接意見を聞く機会を設けており、出来るだけ考慮、反映している。	管理者は、日頃から職員の悩みや相談を受けている。職員は、朝の引継ぎやミーティング時に意見を出している。以前2人部屋として使用していた居室の壁を厚くするよう提案が職員から挙がっている。働きながら資格を取得した職員もいることから、労働環境に配慮していることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務状況を把握し、職員の資格取得奨励、賞与査定、給与水準の向上、休日の増加、勤務時間の短縮、職員の増強等、また介護職員処遇改善助成金の適用などで、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われているグループホームの研修会には研修委員をはじめ参加している。又、各関係機関が催す研修、講習などには出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の年2回の懇親会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、困っていること、不安なことを受け止め、信頼してもらえるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況や、これまでの介護の経緯を聞きながら、それを受け止め、安心してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や訪問を受けたときは適切なサービスを一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵やことわざ、日々の会話や作業の中で教えていただく場面作りを大切にしている。一緒に過ごす中で、いたりや励まし時には叱つたりの言葉が聞かれる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支えが最も大切なのでその関係を大事にしている。行事にも参加してもらい、共にすごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や友人が気軽にホームに来ていただけるよう努めている。	地域の知人や学生時代の友人が訪れている。年賀状や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。馴染みの美容院や理容院に通う人もいる。カトリック信者の入居者は、マリア像を居室に飾っている他、法事には、家族とともに参加しており、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくよう配慮している。気の合う同士で過ごせたり、又トラブルに至らないよう見守っている。入居者同士でお世話をやいたり、思いやりの場面も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を絶たない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、本人との対話の中で「思い」を知るよう努めている。	入居者の個人ファイルの生活歴の欄に、趣味や好きな食べ物の欄を設けており、職員間で共有している。職員は入浴時に1対1になる際、色々な話をしている。生け花や編み物をする入居者の習慣を尊重している他、居室の飾りつけに拘りのある人には、気持ちに寄り添う支援を行い、無理に片づけることはせず見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等を記入してもらい、その後も折に触れ、家族や知人本人との話の中から、少しずつ把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で本人が自ら発揮する「できること」も把握するよう努めている。できなかったこともできる方向にもっていくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向もきき、本人へも日常会話の中で、お話をしながら問いかけ、作成している。会議の中でそれぞれの意見を出し合い介護計画を作成している。	入居前の見学時にアンケートを実施し、本人・家族と面談している。それぞれの意向を確認し、入居した当日から計画を作成しており、実績表は1ヶ月単位で作成し、会議では職員全員から活発な意見が出ている。担当制のモニタリングを実施し、計画は家族の同意を得ている。ただし、計画と実績表の項目が一致していない箇所がある。	介護計画の立案、実施、見直しというPDCAサイクルが正しく機能し、入居者にとって現状に即した介護計画となるよう実績表の管理体制を再度検討することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の行動、言動、状態を細かく記入している。又、朝・夕に個々の申し送り表に記入し、口頭でも伝え情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れ、病院受診、早期退院の支援、重度化した場合のターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	深堀支所(市役所)での公民館祭りに行き、楽しめた。利用者と一緒に近くの図書室へ行き借りる本を選んでもらっている。借りた本はホールに置き、他の方にも見てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近辺から入所の方は引き続きかかりつけ医に往診してもらっている。他はホームの提携医に往診してもらっている。	協力医療機関をかかりつけ医としているが、入居前のかかりつけ医も尊重している。往診の他、急変時も24時間、電話での連絡が可能である。レントゲン等の検査には、ホームで受診支援を行っている。訪問歯科も受け入れている他、正看護師を職員として配し、本人・家族にとって安心できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に入居者の状態や気づきを伝え、相談している。又それに対して看護職から適切なアドバイスや情報をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関、および近隣の総合病院との連携で、協働を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医療機関、かかりつけ医、家族、職員などで検討会議を持ち、全員で方針を共有している。医療機関の協力のうえ、ターミナルケアが可能と判断した場合、実践している。	昨年、協力医療機関やかかりつけ医と連携し、看取りの実績が5例あり、積極的に取り組んでいることが確認できる。入居者や家族の意思は、その都度確認し、職員による検討会も開催して取り組んでいる。入居者が死亡した際には他の入居者への配慮も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は全員受けている。今年度は2月に予定している。(依頼中)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	・毎月消防避難訓練を行なっている。年1回は消防署の協力指導で、消防避難訓練を行っている。 ・地域の避難訓練に参加している。	消防・避難訓練は毎月実施し、今年度は夜間想定は3回、消防署立会いで1回実施している。備蓄用の飲料水を準備すると共に、非常時、入居者の緊急連絡用のファイルを玄関に置いている。地域の災害対策訓練にはホームとして参加しているが、ホーム独自での自然災害対策の訓練は、実施していない。また、地域住民の参加がない。	近年、豪雨等自然災害が数多く発生しているため、自然災害に対する訓練の実施が望まれる。また非常時には、見守り等近隣の住民の協力は不可欠であるため、消防団や町内会等への働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ プライバシーを損ねない介護を、ミーティングで頻回に話し合っており取り組んでいる。 ・ ポータブルトイレにはカバーをかけ、プライバシーに配慮した。	管理者は、職員に対してパッドを持ち歩かない等の指導を行っており、パッド類は目につかないよう収納している。ただし、個人情報の使用に係る同意書を交わしているが、1月から開始した便りについて写真掲載の同意を得ていない。また外部の人の目につく場所に入居者の明細書をボードに留めたり、名前入りの薬袋をマグネットで留めている。	入居者の書類や薬の保管については、個人情報やプライバシーに配慮が必要であるため、管理体制について見直しを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、本人の意向を組み取っている。 スタッフの押し付けはしないよう努め、複数の選択肢から決めてもらう問いかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝時間など各入居者のその日の体調や状態を把握した上で個別に対応している。 過ごす場所も基本的には自由にしてもらっているが、リスクを伴う事もあり、人によって我慢してもらうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ 毎日の服装を自己決定できない人はスタッフが選び了解をもらっている。 ・ 本人の要望で毛染めや化粧したい方は支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片づけを利用者と一緒に行っている。 昼食はスタッフも一緒に食卓につき楽しく食事できるよう、話題づくりを努めている。	入居時に、嗜好調査やアレルギーに関する調査を行い、厨房に入居者毎に歯の状態と注意すべき事項を貼り出し、一人ひとりに対応している。箸の使用が困難な場合は、フォークを使って食事するよう支援している。おはぎやちらし寿司を作ったり、年に1回は外食する日を設けており、食事が楽しいものとなるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方は計量を行い必要量の摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 義歯は毎晩洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツとパッドですごしてもらっている。 行きたいときに行けるよう支援している。尿意のない方は、時間を見計らって声かけ誘導している。	排泄の自立を目標としており、昼間おむつを使用している入居者はいない。排泄チェック表を記録し、一人ひとりのリズムを把握している。できるだけ入居者の意思を尊重し、職員の都合で誘導しないよう心掛けている。病院を退院した入居者には、入院前の状態に戻すことを目標に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさん取れるよう取り組んでいる。おやつ時、ヨーグルトやさつま芋、寒天類の手作りを心がけている。下剤等はその人の状態に合わせて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を聞き、入浴してもらっている。無理強いせず、時間をずらしたり声掛けのスタッフを代わり、入浴につなげている。男性スタッフに抵抗のある方は女性スタッフで対応している。	入浴は週2、3回のペースで支援している。浴室や脱衣所に暖房装置を備え付け、冬場のヒートショック防止に配慮している。また、同性介助に対応している。好みの石鹸やシャンプーを使っている入居者もいる。職員は入浴剤や入浴後の化粧水、保湿クリームを使用し、皮膚の乾燥にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活リズムに合わせて入床、起床の支援をしている。 体力が弱っている人は休息や早目に就寝しているもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認に努めている。その都度主治医に報告し、処方も検討してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・調理や洗濯物等、その人の出来ることをお願いし、力を発揮していただいている。 ・編み物や饅頭作り等、力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩やドライブに日常的に出かけ季節を感じてもらっている。 ・遠方へは家族にお願いしている。 ・各行事には参加して楽しんでもらっている	日常では、近隣の公園に散歩に行くことが多い。天気のよい日は、屋上で景色を眺めながらおやつを食べている。桜の季節には弁当を持って、花見に出掛けたり、ランタンフェスティバルには車椅子の入居者も含めて全員出掛けている等、積極的に外出の支援を行っていることが確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて所持してもらっている。預かっている方でも買い物時には本人に支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に本人の要望で取り次いだり、電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設という雰囲気をなるべく感じさせないように家庭の延長であるような物品、装飾品を使用している。ホールに家族の了解を得て、行事の写真も貼り、入居者の話題の一つにもなっている。	リビングの季節の花や廊下の絵画が落ち着いた家庭的な雰囲気を醸し出しており、入居者はソファで寛いでいる。職員が夜間に清掃しており、トイレも清潔である。空気清浄機により、風邪等の予防に努めている。入居者の身長差を考慮し、手すりの位置を2段階に設置しており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2ヶ所に置き、又、テーブル席も利用し、それぞれ談話したり、作業したりとすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 家具は本人が使用されている物を持ってきてもらう様お願いしている。居室内は好みのものを置いたり飾ってもらっている。	備え付けの筆筒以外は、入居に関し持ち込みは自由である。居室ごとに入居者の個性があり、衣装ケース、テレビやラジオを持ち込んでいる。各居室に空気清浄機を設置し、職員が毎朝清掃し、清潔保持に努めている。写真や観葉植物等を思い思いに飾り、それぞれ寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーで過ごされる方はスタッフが一緒に過ごし見守りをしている。夜間は1階2階それぞれスタッフ1名が見守り起きられた時はすぐに対応できるようにしている。		